

全員、和解を認める

水俣病処 山本会長らが報告会
理委一任派

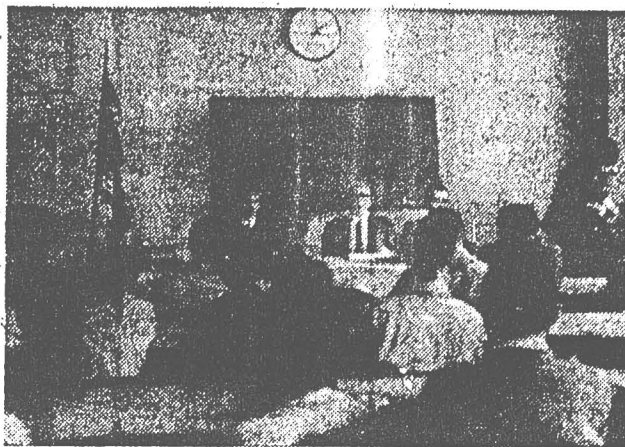
水俣病患者家庭互助会の処理委一任派は、三十日午後一時すぎから水俣市丸陽町の市協働会議室で、東京での和解契約の報告会を開いた。

報告会には関係者だけで開かれたが、山本互助会会長の話によると「不満ではあるが了解してほしいとの要望に対し、不満の声はなかった」とのこと、一任派六

十四世帯が金調印する見通しが強くなった。六十四世帯中六十一世帯が出席した。残る三世帯は病氣入院などで欠席。

まず交渉経過報告から始まり、生存者で三十四年の見舞い金契約の中で年金の一時金として受け取った一任派から「年金を復活してもらえなかったのが残念だった」との声があったが、結局「七十万円まで引き上げるよう決めてきた」との報告を了承した。このほか具体的に「三家庭の例をあげて補償金の算定の説明をしたが、とくにランク付けについて不満の声は聞かれなかったという。

これらの結果、代表者側から「交渉は一時暗礁に乗り上げたが、これが限界だと感じたところでやむなく撤回した。了解してほしい」と求めたところ満場一致で和解契約書に賛同した。



山本会長らの報告を聞く水俣病家庭互助会の処理委一任派

「よかった年金導入」

浮池水俣市長も帰る

東京での水俣病補償処理委のあつせん立ち会いのため上京していた浮池水俣市長は水俣市に帰る。三十日次のように語った。

「私は感情面から痛まれてあつせん、よかったです。また処理委から市役所の報告もあつた。元氣な生活を送る準備を整えたい。」

ているのは非難にいいことと思ふ。東京で補償交渉中の元チン付属関係長細川一博士を見舞ったがラジオで交渉経過を聞かされていたらしく「お母さんでじ」とおぼろげに聞いていた。元氣な生活を送る準備を整えたい。」

まず交渉経過報告から始まり、生存者で三十四年の見舞い金契約の中で年金の一時金として受け取った一任派から「年金を復活してもらえなかったのが残念だった」との声があったが、結局「七十万円まで引き上げるよう決めてきた」との報告を了承した。このほか具体的に「三家庭の例をあげて補償金の算定の説明をしたが、とくにランク付けについて不満の声は聞かれなかったという。

これらの結果、代表者側から「交渉は一時暗礁に乗り上げたが、これが限界だと感じたところでやむなく撤回した。了解してほしい」と求めたところ満場一致で和解契約書に賛同した。

い」と語った。
なお東京での和解契約書に基づいて、今後個人の契約が結ばれるが、江頭テツ子社長が水俣市を訪れるのを待って来月一日か二日に契約を結ぶ見込み。補償金は和解契約が調印された二十七日から十日以内に市を通じて支払われることになっている。